

音楽科学習指導案

指導者 甫出 頼之

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日（土） 第 1 校時（9:00～9:50）
- 2 学年・組 中学校第 1 学年 2 組 計 40 名（男子 19 名，女子 21 名）
- 3 場 所 中学校音楽室
- 4 題 材 名 「生活や社会の中の音」で音楽をつくろう
- 5 題材について

中学校学習指導要領では、音楽科の目標として「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」を目指すとして定義されている。本題材では、生徒が「生活や社会の中の音」に目を向け、生活や社会と音の関係に興味をもつようにするため、「家のリビング」や「近所の公園」といった生徒にとって身近な「場所」をテーマに設定し、「生活や社会の中の音」を使ったアンサンブルの創作をグループ活動で行う。参考曲として聴取する管弦楽曲『シティ・ライフ』（スティーブ・ライヒ作曲）では、サンプラーを使用し、作曲者が在住するニューヨーク市とその周辺で録音されたスピーチの声やサイレンの音、車のクラクションやブレーキ音など、さまざまな音が使われている。特に、スピーチの声（It's been a honeymoon）のみでリズムが刻まれる第 3 楽章の冒頭部分は、アンサンブル創作の参考になると考えられる。

本学級の生徒は、7 月に 4 人グループで打楽器アンサンブルの楽曲に取り組み、発表会を行った。すべてのグループが同じ楽曲の楽譜を使用したがる、楽器の構成や速さ、音の強さなどを工夫することで、楽曲の雰囲気が変化することを実感できた。また、10 月初旬に開催された文化祭の舞台発表では合唱を発表し、学級の仲間たちと音楽をつくり上げることに充実感を感じている様子が、文化祭後のアンケートの記述からうかがえた。

指導にあたっては、生徒が簡単な操作で「生活や社会の中の音」を録音・再生できるよう、タブレット端末のサンプラーアプリ「Koala Sampler」を使用し、グループ活動で生徒がしっかりと試行錯誤できる環境を整える。「Koala Sampler」では、最大 64 種類の音を録音できるだけでなく、無音部分の自動削除機能や音のピッチを微妙に調整する機能も備えているため、今回の授業実践に適していると言える。

6 題材の目標

- (1) 録音した「生活や社会の中の音」を使い、効果的に音を重ねたりリズムを刻んだりしてアンサンブルをつくる。
- (2) 「生活や社会の中の音」を録音し、設定したテーマをアンサンブルで表現する。
- (3) 「生活や社会の中の音」に興味をもち、さまざまな音を録音して、それらを使い楽しく音楽活動を行う。

7 指導計画（全 5 時間）

次	時	学習内容
1	1	学校の中でさまざまな音を探して録音する。
	2	聴取した音楽を参考にし、各グループでテーマを設定する。 また、「生活や社会の中の音」を、家庭などで録音することを課題として設定する。

2	3・4	録音した音を素材にして、アンサンブルの創作活動を行う。(本時4／5)
3	5	創作したアンサンブルを発表する。

8 本時の目標

録音した「生活や社会の中の音」を使い、設定したテーマをアンサンブルで表現する。【思考・判断・表現】

9 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 前時までの学習を振り返り、本時の活動やめあてを確認する。	○ 本時では創作したアンサンブルの中間発表を行い、各グループの発表を聴き合いながら創作活動を進めていくことを伝える。
つくったアンサンブルを聴き合い、意見を出し合ってブラッシュアップしよう。	
2. 中間発表。 ・○○の音と△△の音の重なりがおもしろい。 ・□□の音でリズムが刻まれているが、□□の音ではないように聴こえた。 ・テーマがもっと伝わる音の使い方ができればいいのではないか。	○ 発表時は、「Koala Sampler」の音がしっかり聴こえるように、スピーカーから音を出すようにする。 ○ アンサンブルによって「グループのテーマが表現されているかどうか」という視点をもって発表を聴くように伝える。 ○ 各グループの発表後、「グループのテーマが表現されているかどうか」という視点から興味深く感じた点や改善点についてロイロノートのカードに記入するように指示する。また、そのカードを発表したグループの共有ノートに送付し、グループ同士の意見交流ができるようにする。 ◆ 録音した「生活や社会の中の音」を使い、設定したテーマをアンサンブルで表現している。【思考・判断・表現】
3. 中間発表についてグループで協議しながら、最終発表に向けてアンサンブルをブラッシュアップする。 ・もっとテーマが伝わるように、☆☆の音をたくさん入れてみよう。	○ 自分たちのグループの中間発表を自己評価し、他のグループの意見も参考にしながら活動するように伝える。 ○ 次時に最終発表を行うことを伝え、見通しをもつことができるようにする。

10 授業の分析

(1) 主な成果

①グループによる活動について

今回はクラスの学習班（４名）グループによる活動を行った。授業後のアンケート（図１）の５段階評価で５と４の割合が８４％であり、概ねどのグループも協力して活動ができた。

グループで協力して作業を進めることができた。
75 件の回答

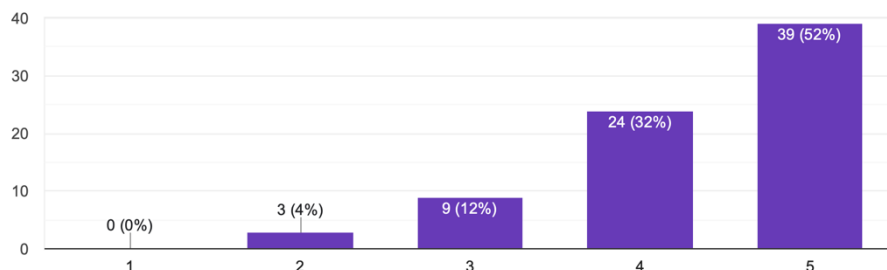


図１ グループで協力して作業をすすめることができた アンケート結果

②サンプラーアプリの使用について

今回使用したサンプラーアプリのボタンは英語表記で、生徒にとって操作がわかりにくいことが予想された。そのため、創作活動の前にしっかりとサンプラーアプリの操作について説明を行った。その結果（図２），わかりにくさを感じる生徒が若干いるが，５段階評価で，５と４の割合が 97.4%と，操作に関して大きな問題は起こらなかった。

サンプラーアプリの使い方を理解し、使用することができた
75 件の回答

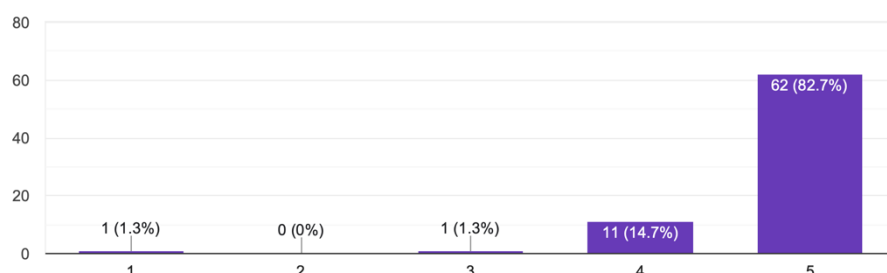


図２ サンプラーアプリの使い方を理解し、使用することができた アンケート結果

③「生活や社会の中の音（身の回りの音）」への関心について

授業後のアンケート（図３）で，90.7%の生徒が上がったと答えている。目標として「生活や社会の中の音」に興味をもつことを挙げているが，今回の活動を通して達成することができた。

「生活や社会の中の音（身の回りの音）」への関心が授業前よりも上がった
75 件の回答

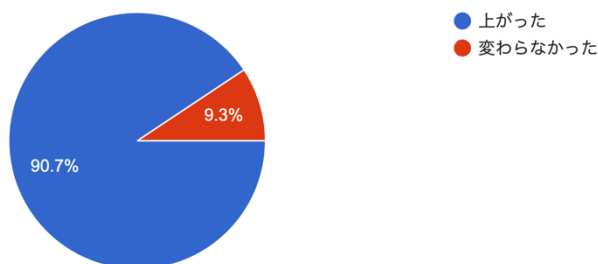


図３ 「生活や社会の中の音（身の回りの音）」への関心が授業前よりも上がった アンケート結果

④「生活や社会の中の音（身の回りの音）」に対して考えや意識の変化について

授業後のアンケートで74.7%の生徒が変化したと答えている。

具体的にどのように変化したのか生徒の答えを分析し、以下のようにまとめた。

- ・「生活や社会の中の音」で音楽をつくることを考えたことがなかった。また、音楽はできないと考えていたが、その考えが覆された。
- ・「生活や社会の中の音」は音楽ではないと考えていたが、音楽であると考え方が変わった。
- ・生活や社会の中で聞こえる音に対する興味が以前より大きくなった。
- ・「生活や社会の中の音」を意識して聞くようになった。
- ・普段の生活の中で「今聞こえた音はなんの音なんだろう」といったように、「生活や社会の中の音」について考えることが多くなった。
- ・静かだと思っていた場所でも、よく耳を澄ますと色々な音が聞こえてくることに気づいた。

（２）今後の課題

課題としては、音楽的な意味も意識させながら、創作活動することである。ともすれば、ただ楽しかった、出来上がってよかった、という感想に終わってしまわないように、生徒たちの振り返り、評価し合う活動、教師からの働きかけを意識する必要がある。

本実践で、生徒の「生活や社会の中の音」に対する意識を大きく転換させることができた。今後はサンプラーで採取した音だけではなく、実際に身近なもので音をつくり出す活動や色々な声を使った活動など、「生活や社会の中の音」を意識した創作活動を広げていきたい。